江戸ー東京散策略図

17N1007 岩佐一輝
17N1020 小川晴喜
17N1059 瀬谷佑人
17N1107 山口晃司

東京を歩いても江戸からの流れを見て感じるのは難しい。しかし、江戸から続く東京に一歩視点を変えることで江戸の面影が見えてこないだろうか。
私達は葛飾北斎の名所江戸百景から人が多く描かれた浮世絵を選別し、調査した。人が描かれた絵は賑いのある町であり、その町の様子が滲み出る為、読み取りやすい。その町がどう変化してどこが変わらないのかを見えるようにすることで東京散策を楽しめる地図を作る。そして、選定する浮世絵は人の描かれた枚数の多かった順の、最先端の文化の町であった浅草・上野界隈、魚市場や商業などで下町として栄えた日本橋界隈、桜田門など江戸城の要衝であった霞ヶ関界隈に絞り、江戸から東京を考える。

賑い度ランキング in 江戸

1位	浅草界隈	9枚
2位	上野界隈	8枚
3位	日本橋界隈	7枚
〃	霞ヶ関界隈	7枚

名所江戸百景
5人以上が描かれる絵の数より

下谷広小路

ここは将軍が寛永寺へ参詣する際に通った道、浅草への道とも交差し、大変賑やかだった。傘の女達は上野の山に花見に向かっている。今は松坂屋が残り、人も多いが道は車がメイン。

よし原日本堤

浮世絵では遊郭・吉原への道を人々や駕籠が行き交っている。現在道脇の堀は埋め立てられ、公園が設置された。遊郭はなくなり、道はかつての雰囲気を失っている。

猿わか町よるの景

元々は歌舞伎などを興行する芝居小屋の集まる町で賑わっていた。今はそのなごりはほとんど消え、跡地に碑が残るだけである。人通りも少なく、静かである。

浅草金龍山

現在は外国人など観光客が増え、賑わいを見せていて浮世絵の静かな雰囲気とは対称的だ。絵の五重塔は西側に移築された為、写真には写っていない。

日本橋通一丁目略図

中心の往来通りの人々や女太夫の他に、多くの庶民が行き交う。白木屋をはじめとした商店が軒を連ねた。現在は高層化が進んだが、商業の場としては色濃く残っている。

京橋竹がし

付近には船で運ばれた竹を立てかけた竹問屋が多かった。京橋の風景は大山詣りの講中に江戸に帰ってきたと実感させた。今は川は埋められ上には首都高がはしる。会社員が多い。

霞かせき

かつては江戸湾と市内を眺望できた。絵は新年でそれを祝う一行や物売りがおり、人が行き交っていたと見られる。現在は車が道を走り、ビルが建った為、その景色は消え、車がメインになった。

今回、浮世絵と共に東京を散策することで、より東京の奥深さを感じることとなった。その要素として大きく3つ考えられる。それは江戸の賑わいがなくなった景色、風景に変化は生じても賑わい続ける街の景色、橋や道路のあり方の変化である。
まず、猿わか町や吉原日本堤のようにかつての賑わいを失い、閑散とした住宅街や公園になった場所がある。それは政府の法令や時代の移り変わりにより街を賑わせた要素が消えていったことが原因である。
反対に日本橋や上野のように、今もなお町が栄えている場所は白木屋や松坂屋といった勢力のある商人・商店が存在したことが影響している。周辺環境や人々の身のこなしは今日とは違いはあるが、日本橋は商業の場、上野は桜や文化の町として役割自体に変化は少ない。
そして、上野と霞ヶ関の浮世絵から分かるように道路は人のためにあった。道は通るためだけでなく、遊びや商いの場であったが今では主に車のため場となってしまった。また、時代が移り、運搬方法も変化した為、川の価値が下がりそれに伴い、都心の橋は昔ほど重要な場として見られなくなった。日本橋・京橋の上には首都高が走るようになりかつての面影はほぼ消えた。このようにインフラが東京の形成に与えた影響は大きい。
今閑散としている道もかつては賑わっていたかもしれないし、今賑わいのある町は江戸から魅力を引き継いでいるかもしれない。浮世絵と比べることで見えなかった東京が見え、歩く時間はより楽しいものになるだろう。